



# 子育て中の方に ぜひ読んでもらいたい オススメの本!

だれにでもあるイヤイヤ期や反抗期など。年代特有の悩みは尽きません。子どもの気持ちを理解するにはどうしたらいいのか…。そんなときには、本の中からヒントを探してみるのはいかがでしょう。

## 保護者の方へ



『泣いてもいいんだよ』の育児  
（自由国民社）著  
（自由国民社）

「何をしてもかわいい」「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちは必ず赤ちゃんに伝わります。目の前の赤ちゃんをよく見て受け止めることから始めてみませんか？



『子どもを否定しない習慣』  
（ラオレスト出版）著  
（ラオレスト出版）

子どもを注意するときや何かを頼むときに、無意識のうちに否定的な態度をとっていませんか？否定しない会話することで、家族みんなが過ごしやすい環境に変えることができます。



『アクティブリスニングでかなえる最高の子育て』  
（主婦の友社）著  
（主婦の友社）

無条件にただ話を聴くことは、意外と難しいものです。子どもを一人の個人として尊重し、心のゆとりをもって子どもに向き合うためのヒントが詰まった本です。



『親の「聴き方」ひとつで失敗に負けない子が育つ』  
（青春出版社）著  
（青春出版社）

子どもを伸ばすための聴き方（傾聴）や子どもをへこませてしまう訊き方（質問）が、具体的な状況とともに紹介されています。子どもとの接し方に迷ったときにはぜひ。



『だって...』  
（国土社）著  
（国土社）

子どもがよく口にする“だって”。“また言った！“だって”って言わないの！”と、つい叱っていませんか？でも、“だって”という言葉の向こう側には、大人にわかってもらいたい理由があるのかもしれないですね。



『ピッツアぼうか』  
（好学社）著  
（好学社）

雨のせいで外に遊びに行けず、ご機嫌ななめのピート。お父さんはそんなピートをピザに見立ててごっこ遊びを始めます。こねて、のばして、ひっぱって、オープンで焼かれる頃にはすっかり機嫌も良くなって…。発想の転換って大切なことかもしれません。



『ねえ だっこして』  
（金の星社）著  
（金の星社）

「いいよ かしてあげる だいすきな おかあさんの おひざ」赤ちゃんが生まれた家の飼い猫の視点から語られる、優しさや寂しさのいろんな気持ち。弟や妹が生まれたときの子どもの気持ちに似ています。たまには上の子も思いきり甘やかしてあげたいですね。



『どうせ自分なんて』  
（小学館）著  
（小学館）

子どもたちは、その時々で様々な悩みを抱えているものです。そんな悩みも、ちょっとした気持ちの切り替えでスッと楽になります。筆者の体験も交え、悩みの解決のヒントを紹介しています。

読み聞かせ等に関するご相談は、ぜひ、下記の図書館までどうぞ！

- 中央図書館 ☎636-0231
- 東図書館 ☎638-5614
- 南図書館 ☎653-7609
- 上河内図書館 ☎674-1123
- 河内図書館 ☎673-6782
- ※表紙画像の無断コピー禁止

